

印刷博物館館長
樺山 紘一
かばやま こういち



豊島区立中央図書館があらたに開館して、一年が経過しました。これまでに、すでに百万人を超える入館者をお迎え、ほとんどチームといつてもよい状況だといえます。たしかに、いくつか訪れてみましたが、さほど広くはない館内は、いつも本にとりくむ人びとであふれかえっています。世間でいうような、「読書離れ」などどこふく風といった趣きでして、とはいえず、図書館をめぐる事情は、けつして安心できるものではないでしょう。全国的にみれば、財政難

「図書館サミットにむけて」

豊島区立中央図書館があらたに開館して、一年が経過しました。これまでに、すでに百万人を超える入館者をお迎え、ほとんどチームといつてもよい状況だといえます。たしかに、いくつか訪れてみましたが、さほど広くはない館内は、いつも本にとりくむ人びとであふれかえっています。世間でいうような、「読書離れ」などどこふく風といった趣きでして、とはいえず、図書館をめぐる事情は、けつして安心できるものではないでしょう。全国的にみれば、財政難



豊島区立中央図書館報

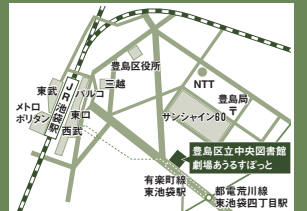
と し ょ か ん つ う し ん 図書館通信

第9号/隔月刊
2008

トピックス

- 巻頭言「図書館サミットにむけて」 樺山紘一……………1ページ
- 新航路「図書館サミット開催」……………1ページ
- 生涯の「冊」 日本文壇史「開化期の人々」 高瀬西帆……………2ページ
- 区内6大学図書館の紹介「天正大学」……………3ページ
- お店探訪「豊島区伝統工芸」……………3ページ
- 特別講演会予告「地域研究セミナー第6弾」……………4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
 東京都豊島区東池袋四 五一一
 ライオンアリーナビル4階 〒170-8441
 電話 ● 〇三三九八二七七八
 FAX ● 〇三三九八二九九〇四
 ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp>
 発行日 ● 平成20年11月



新航路[8]

「時代を変える 図書館サミット」 ～まもなく開催

いよいよ目前に迫った図書館サミットの開催。「図書館」をキーワードとして、

- 読書離れ、活字離れの解消—
- 文字・活字文化の発展—
- ITの高度利用—
- 本をつくり送り出す人々との協働—
- 地域の課題解決と文化創造—

に向けた、より広範な共感と連帯を生み出すことを目指しています。

先日、近隣の図書館員の方から問い合わせがあり、「国立国会図書館の長尾館長さんをはじめ、福原義春さん、阿刀田高さん、樺山紘一さんなど、一公立図書館でよくこれだけのメンバーをそろえることができましたね」と、たいへんびっくりした様子でした。もちろん、豊島区参与である粕谷一希図書館行政政策顧問の人脈に負うところが大きいのですが、実はシンポジウムや分科会のパネリストが固まったのは、つい最近です。

それまで実行委員会で検討を進めてきたのですが、議論百出、大いに難航しました。高い見識を持った方々の議論ですから、事務方としてもなかなか口をはさめない。もちろん、いつかは落ち着く所に落ち着くのですが、気がつけば開催1ヶ月前になっていました。

「さあ時間が足りない」ということで、区役所の他の部局にも声をかけ、応援を頼んで、一気に全庁的な取り組みとなりました。一方、私たちの苦勞を聞きつけ、心配して集まってくださったボランティアの方々もいます。豊島区を愛し、ご尽力いただいているボランティアの皆さんには、ほんとうにいくら感謝しても足りません。

どうやってお礼をしたらいいのだろう、と考える暇もなく、あと10日で11月12日(水)、13日(木)の本番を迎えます。まずは成功のうちに終わらせることが第一です。

区内の図書館をはじめ、各施設にポスターとチラシを置いていきますので、ぜひ手にとってご覧ください。もちろん、豊島区立図書館ホームページにも詳しい情報を載せています。

1年間で100万人、今も中央図書館には1日3000人を超える利用者の方がお見えになっています。皆さんにとって、これだけ身近な施設は他にありません。そんな図書館ですが、はたして図書館は時代を変えられるのか、図書館は今どこへ向かっているのか、ぜひ皆さんも一緒に考えてください。

新たな出会いが待っています

大勢の方に利用される図書館。「課題解決型図書館」という言葉も定着しつつありますが、実は図書館自体が多くの課題に直面しています。

例えば中央図書館の場合、「いつ行っても座れない」閲覧席の不足は開館以来ずっと続いている大問題です。いつまでも手をこまねているわけにはいきません。図書館サミットと同時進行で、それら目前の課題にも対処していかなければならないのですが、残念ながら、「どんなに費用をかけてもいいから、最高のサービスを提供しよう」というわけにはいきません。私たち公立図書館は、あくまでも費用対効果のバランスのなかで図書館経営を模索していかなければなりません。

限られた予算と人員のなかで、少しでもパフォーマンスを高めるために、今、区内6大学図書館との連携や、図書館経営協議会の設置といった新たな取り組みを進めています。例えば、大学図書館と区立図書館で地域のコンソーシアム(連合体)をつくることであれば、図書館の可能性を大いに広げることができるのではないか。大学図書館のご協力をいただきながら、一歩一歩手探りで進んでいます。

課題解決の道のりは遠く、私たちはまだまだ勉強不足です。日本や世界で進められている色々な先進的事例についての知識・情報とも、決して十分ではありません。時には視点を換え、遠くからの声に耳を傾けることも必要です。共通の問題を抱える人々との広範な共感と連帯は、必ずや明日の糧となるはずです。

図書館サミットでは、きっと目が刺さるような、貴重な意見や提言をいただけることと思います。図書館サミットでどんな出会いが待っているか。期待に胸がふくらみます。

の方がたが、熱い思いをかたるはずで、著者や出版社、あるいは書店のみならず、本を送り出す側が、現状と未来にむけての希望をかかげるでしょう。また、書物を手にとる利用者としての読者は、地域や生活にとって図書館がどのような役割をはたしてほしか、期待をかかげると思います。そして、公共や大学の図書館それ自体からも、住民サービスの発展と専門度の充実をむけて、メッセージが発信されるはずで、そして、昨今よく話題になる、デジタル技術と読書の関連を、前向きに理解する方法とはなんだろうかと。

りたち、これからの図書館にむけて、あらたな可能性を発見し開拓できるように、開かれた場を用意したいと心をくだきました。図書館の未来をつくりだすために、みなさんのご支援をいただきたいと念じています。どうかよろしくお願ひいたします。

東京大学名誉教授(西洋中世史、西洋文化史専攻)。前国立西洋美術館館長。「時代を変える図書館サミット」では、実行委員会副委員長を務める。近著「地中海―人と町の肖像」、『旅の博物館』、「歴史家たちのユートピア―国際歴史学会議の百年」等。

中央図書館がお薦めする本

「思いっきり泣きたいときに読む本」



『日本文壇史』開化期の人々
著者 伊藤整
発行 講談社

生涯の一冊 (8)



『いーゆ』編集長
高瀬 西帆

池袋のパートナー 情報誌『いーゆ』の編集長で、「群像 豊島の文化人」の著者。豊島をこよなく愛する高瀬さんの登場です。

そんな私だが、身近の本棚の一等席(?)に、かなり古ぼけた数冊の本が、大威張りして立っている。私は何度か引越しをし、そのつど書物を整理してきたが、この本だけは今も残っ

「あなたにとって一冊の本は？」と、ときどき聞かれる。残念ながら私にとって「これです」と答えられる本はない。私の読書歴は全くの乱読。それだけに、感動したり感銘を受けたりはしよちゅう。しかも、年令によってその感じ方が、どんどん変わってくる。総じて、夏目漱石の作品は好きなのが、一冊の本といわれると…。

もしかしたら、そのときのデジャビュが私に「群像豊島の文化人」を書かせているのかも知れない。だとすれば、この本こそが、私にとっての「生涯の一冊」なのだろう。

29(1995)年4月26日、博進堂書店にて購入」とペン書きしてある。B6判で各巻300頁前後の上ケース入り。戦後まもなく出版された本で、紙質は悪く、印刷も良いとはいえない。だが、この本、日本の近代文学史の一面を知る上では格好の本。明治初期から書きおこされていて、その時代に生きた作家たちの私生活を、垣間見るような興味津々さ。夢中になって読んだ。その後も、何度か引っぱり出しては読んでいます。



書名 『アルジャーノンに花束を』
著者名 ダニエル・キイス / 著
小尾美佐 / 訳
出版社 早川書房
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早

もっと頭をよくしてあげると言われたら？ そのためには手術が必要だと言われたら？ チャーリーの答えは、「かしくしてくれぬならかしくなりたいです。」

手術後、知能は徐々に上がっていき、チャーリーを取り巻いていた世界も変わっていきます。そして精神遅滞から天才へと変貌したチャーリーに見えてきたものとは…。人間として生きることのすばらしさと哀しさを描き、SFの枠を超えた現代の古典。



書名 『村田エフェンディ滞土録』
著者名 梨木香歩
出版社 角川書店
所蔵館 単行本(中央・上池・池袋・目白)
文庫(中央・駒込・巣鴨)
©角川書店

百年前の、東西文明交流の地トルコのイスタンブールでの村田氏の滞土記です。

人種、宗教の異なった魅力的な人々に加え、鷗鷗まで居る不思議な共同生活が描かれています。第一次大戦が始まり、悲しみが広がってゆきます。日本に戻った村田宛に外国からの大きな荷物が届き、開けてみると…言葉の記憶が一気にあふれ出て、思わず涙があふれてしまいます。『家守綺譚』と二部作です。

書名 『カシオペアの丘で』上・下

著者名 重松 清
出版社 講談社
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白

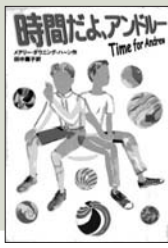
人はいつ泣くのか？ 嬉しいとき、悲しいとき、大切な人を失うとき、辛い思いをさせたとき、そして、ゆるされたとき。
直木賞作家による、泣ける要素満載の一冊。読後、ぜひ星空を見上げてほしい。昼間でも嵐の夜でも、星は確かに私達の頭上で輝いているから。



児童向け

書名 『時間だよ、アンドルー』

著者名 メアリー・ダウニング・ハーン / 作
田中薫子 / 訳
出版社 徳間書店
所蔵館 中央・駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早



アンドルーは、過去からやってきた、自分と名前も一緒で、顔もちりふたつの少年に出会います。死ぬ運命にある過去のアンドルーを助けるため、二人は時代を入れ代わりますが、様々なトラブルに巻き込まれることに。ラスト、思いがけない結末に、泣けること必至の一冊です。

ボランティア紹介

図書館でボランティアとして、また自主的に活動されている皆様をご紹介します。

ひかり文庫 点訳研究会

3回連続で点字図書館「ひかり文庫」で活動されているボランティアを紹介してまいりました。最後にご紹介するのは「点訳研究会」です。代表の板場さんにお話をうかがいました。点訳とは、点字に訳するという事です。設立以来30余年、現在45名のメンバーを擁する研究会では、ひかり文庫から持ち込まれる活字の図書や雑誌を点訳する活動を行っています。点訳された図書は、ひかり文庫に収蔵され、全国の利用者の方に無料で貸し出しされています。

以前ご紹介した「ひかり文庫朗読会」の朗読ルールと同様に、点訳にもたくさんの約束事があります。点字は、例えば、「図書館」を「としょかん」とし、仮名を2列3行の点に置き換えるのですが、数字や()などの記号は、ここから記号がはじまりますといった目印を置いてから始めるなど、なかなか手間のかかる作業です。

今ではパーソナル・コンピュータを活用して、入力したデータを点字プリンターで打ち出すのが主流だそうで、かつての点字タイプライターや、点字盤でひと穴ずつ穿孔するようなことは、実務では行われていません。2年に1度のボランティア養成講座や、親子点字教室など、点字とはどういうものかを体感する機会には旧式の手法がひと役かっているという事です。ところで点字を読む場合は、突起を指でなぞるのですが、点字を打つときは、紙の裏面を右から左に向かって打つのだそうです。言われてみればなるほどですね。ボランティアの皆さんもパソコンの画面に向かって、キーボードの6つのキーを使い、点字の6点の組み合わせを打ち込んで



点字対応PCと点字プリンター

いくのです。実際にひかり文庫のパソコンで体験してみましたが、画面の右から左に向かって、点字配列を裏返しにした黒い点が並んでいきます。ボランティアさんは、裏側からの点字でないかと読めないそうで、点字の突起を触ってもわからないとおっしゃるのには笑ってしまいましたが、意外にスベチャリストはそういうものかもしれません。

一冊の本を点訳するというのは、大変な時間と労力を要するものだと想像にかたくないわけですが、こうした活動を継続してくださる方がいらっしゃるおかげで、点字図書館は成り立っています。視覚に障害のある方は、朗読・拡大・さわる絵本・点訳というニーズに合わせたサービスにより、読書を楽しみ、必要な情報を入手することができます。本当にボランティアさんのお力に負うところが大きく、取材のたびに頭の下がる思いでした。しかし意外にも皆さんこうおっしゃいます。「私たちこそ勉強になっている。自分の活動が人の為になっていることが嬉しい。」と。

区広報の点字版
ほかにも小説など蔵書は2,000タイトル



点訳者が校正に使用する墨字プリント

区内6大学図書館の紹介「大正大学」編

西巣鴨の地で、今年で創立82年を迎えた大正大学は、大正15年に開学した仏教系の大学です。現在、文学部の2学科および人間学部の4学科と大学院を擁する大学の図書館は、多くの貴重な仏教資料や東西の哲学・思想・歴史資料、日本や中国、欧米の文学に関する文献なども充実しています。

蔵書数と特徴

- 図書は約39万冊、雑誌は6万5千タイトルあります。
- 和装本（昭和初期から昭和42年頃のもの）は独自の分類（宗派別）になっています。



正門

利用方法

- 研究目的のために資料の利用を希望される方は、区立中央図書館からの紹介状と身分証を持参し、申請することで利用カードを発行してもらえます。

図書館 PR

- レファレンスでは、一般書はもちろんですが、特に仏教資料について大いに専門性を発揮しています。
- オープンキャンパス開催時（今年度は6～8月）には、本館所有の貴重書を特別展示します。



本を運搬するキャスター（ブクトラック）にある表示は、チベット文字で「洋書」と書いてある。



「源氏物語」の写本（室町時代中期）が収められていた、江戸時代初期に作られたとみられる黒漆塗りの専用単筒（たんす）



図書館棟正面入口 地上5階、地下2階の建物

大正大学附属図書館（巣鴨校舎）

- 住所：豊島区西巣鴨3-20-1
- 電話番号：03-3918-7311（代表）
- URL：http://www.tais.ac.jp/lib/
- 交通案内：JR 埼京線「板橋駅」徒歩10分
都営三田線「西巣鴨駅」徒歩2分
都電荒川線「新庚申塚駅」徒歩7分
都営バス（池袋駅東口から浅草雷門行または西新井駅行）「堀割バス停」徒歩2分



豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。



江戸べつ甲

宮本 正義さん

◆ 300年の伝統、これからも……

江戸べつ甲の宮本正義さんの工房は、巣鴨駅からけぬき地蔵へ向う地蔵通り手前の路地を入った閑静なエリアにある。宮本さんは、昭和9年、11歳より義父のもとで修行を始め、以来74年間、べつ甲職人一筋で、作品を作り続けている。べつ甲とは、タイマイという海亀の甲羅であり、江戸時代にべつ甲を使った加工品が普及したといわれている。材料の甲羅は、中央、ふち、腹の部分が互いのように複数枚に分かれ、場所により硬さや色合いが異なるが、特に黄色の多いものは価値があるとされている。工程は、まず材料に型取りをし、糸鋸で切った何枚かの甲羅を組み合わせ、厚みを出すために水、熱、圧力でプレスをする。その貼り合わせたものにヤスリ、小刀でデザインを施し、丁寧に磨いて光沢を出す。宮本さんは、作品の素晴らしさが認められ、天皇陛下のべつ甲の眼鏡を製作した経験を持つ。また、平成2年に東京都優秀技能者、平成4年には東京都功労者として表彰された。

しかしながら、材料の甲羅を持つタイマイは平成6年よりワシントン条約で輸出入が禁止され、材料として使える甲羅は禁止前に入力されているものに限定されている。今まさに、べつ甲細工の伝統は危機に直面している。近年、タイマイの人工化に成功し、増養殖の研究開発が進められているが、少なくなっている材料に、日々、不安を感じながら、いつの日か朗報が届くことを期待している。幸いなことに、お孫さんが後継者として、日々、修業に励んでいる。84歳になった今もお、現役で作品を作り、休みの日にはゴルフをする宮本さんの若さにはすっきり圧倒されてしまった。



お店探訪 ～宮田家具店～

代表取締役 宮田 和昌さん



「快適な暮らしをお届け」

現在は、池袋駅東口から歩いて3分、グリーン大通り沿いに宮田家具店本館、その裏手の路地を挟んで「新館「ベッド専門店グレースカ」」があります。創業は大正2年、もうすぐ百年というところ。初めは大塚駅南口、現在の南大塚地域文化創造館（当時は都電の車庫でした）の向かい側にありました。戦前の大塚は池袋よりずっと賑わっていました。都電も何本もの路線があり、乗降客は街にあふれていました。百貨店の白木屋もあって、「アイスクリームを食べるのに大塚まで行った」という話をよく聞きました。それはハイイカマだったのです。昭和9年に池袋西口に支店をうつりました。当時は西口の方が賑やかだったんです。区画整理で現在地に移ってきましたが、戦災ですっかり焼けました。その需要が旺盛でした。家具の商いは、時勢に影響されます。戦後復興期は実にその需要が旺盛でした。生活が落ち着いて、婚約3点セットとか、ダイニングセット、リビングセットと売れ行きも変化してきます。マンションが増えるという住まい方も反映します。

現在、本館では、リビングダイニング、収納、書棚などの家具を、新館「グレースカ」では主にベッドを扱っています。ここ「グレースカ」では、あらゆるベッドを揃えていますから、じっくり見比べることができます。

ベッドで横になって本を読む、というのにもくつろいだ生活ではないかと思えます。「快適な生活」をお届けすることをモットーにしています。

東口のこは、根津山の端でしていましたが、時代が変わっていく実感を大切にして、お客様の「要望」に応えています。

地域研究ゼミナール 受講生募集

豊島区に關係の深いテーマについて、図書館の資料を活用し学びながら、自分の研究テーマを探すゼミナールを開講します。

第六弾は「池袋モンパルナス前史」—白樺派と生命の芸術—(全5回)

講師 豊島区図書館専門研究員 尾崎真人(おさき しんじん)氏
2010年は「白樺」が創刊されて100年を迎える。「池袋モンパルナス」の源泉の一つである「白樺派」の美術と芸術観の意味を考える。

- 日程 第1回 12月14日(日) 雑誌「白樺」を読む「白樺」と「スバル」の発刊宣言
第2回 21年1月11日(日) 雑誌「白樺」の役目と変遷 生命讃歌とヨーロッパの文芸運動
第3回 21年2月8日(日) 「白樺派」の作家事例研究1 生命の表現を求めて
第4回 21年3月8日(日) 「白樺派」の作家事例研究2
第5回 21年3月22日(日) 「白樺派」のトポス-定期観測「白樺派」マップの作製
いずれも午後2時~4時(開始時間を変更する場合があります。)

会場 中央図書館会議室・その他
費用 500円(資料代等)※会場への交通費等は各自負担です。
募集 30名 ※ゼミナールの受講を希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。



中央図書館 特別講演会<予告>

豊島区にゆかりのある、詩人 アーサー・ビナード氏を講師にお迎えします。

平成21年2月15日(日)午後3時~5時
会場:「あうるすぽっと」会議室B
募集:100名
参加費:1,000円
講演会の申込みは平成21年1月5日より開始
※講演会のテーマ、内容は次号でお知らせします。

アーサー・ビナード氏

プロフィール
米国コルゲート大学で英米文学を学び、日本語にも興味を抱き、1990年来日。当時、池袋に住み、池袋モンパルナスの代表的な芸術家 小黒秀雄の童話に出会い英訳にとりかかる。同時に日本語での詩作を始める。2001年、詩集「釣り上げては」(思潮社)で中原中也賞、2005年、「日本語ごりごり」(小学館)で講談社エッセイ賞、2007年、「ここが家だーベンチャー」の第五福竜丸(集英社)で日本絵本賞、2008年には「左右の安全」で山本健吉文学賞を受賞。



図書館イベント情報

- 各図書館の連絡先
駒込図書館 3940-5751 上池袋図書館 3940-1779 目白図書館 3950-7121
中央図書館 3983-7861 巣鴨図書館 3910-3608 池袋図書館 3985-7981 千早図書館 3955-8361

児童・あかちゃんおはなし会 毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

Table with columns for venue, date, and event details. Includes events at Central Library, Kojimachi, Utsunomiya, and Chihaya libraries.

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

区ゆかりの漫画家 横山光輝 コラボレーション企画 (申込不要。当日、千早図書館へ直接お越し下さい。)

◆千早進歩自由夢

日時 12月13日(土)午前10時~正午
場所 千早図書館 視聴覚室
講師 慶応義塾大学名誉教授 立間祥介氏
講演 「三国志と横山光輝」
共催 千早図書館友の会
後援 光プロダクション

日本における「三国志」研究の第一人者立間祥介氏より、「三国志」とはどういった物語か、そして横山光輝と行かれた中国への取材旅行の思い出などを語っていただきます。その後、編集者として横山と交流のあった岡谷信明氏にも加わっていただき、立間氏と対談していただきます。

◆千早図書館

第1回「横山光輝アニメ映画上映会」

日時 12月21日(日)午前10時~正午
会場 千早図書館 視聴覚室
映画会 アニメ「三国志」上映
横山光輝の晩年の代表作であるアニメ「三国志」の上映を行います。子供から大人、お年寄りの方々まで、ふるってご参加ください。

「朗読の会 たのきゅう」朗読会

-5年目を迎え小さな会を開きます-
日時 12月4日(木)午後1時~3時
会場 千早図書館 視聴覚室
・第一部 朗読会
「やまどりの矢」「ハンナのあたらしい服」等を朗読します。
・第二部 お話し会
斎藤隆介さん(もちもちの木、ペロ出しチョンマなどの作者)の作品や著者について、いろいろお話をしてみたいと思います。

申し込み方法

- ※申し込み方法は2種類です。
※重複して応募された場合、2枚目以降は無効です。
※応募者多数の場合は抽選となりますので予めご了承ください。また、申込期限後1週間程度で当落の通知をします。

- 1 復返はがきにて①~⑤を記入し下記送付先へお送りください。(はがき1枚につき1件の申込みをお願いします。)
①ゼミナール名「地域研究ゼミナール 池袋モンパルナス前史」
②郵便番号 ③住所 ④氏名(ふりがな) ⑤電話番号
◆申込期限:11月28日(金)消印有効
◆送付先:〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル5階 中央図書館 企画調整グループ
2 電子申請でも受け付けます。
豊島区ホームページアドレス http://www.city.toshima.tokyo.jp/

図書館カレンダー

Calendar table showing library hours for Central, Kojimachi, Utsunomiya, and Chihaya libraries from November to December.

編集後記
今月号より新企画「区内6大学図書館の紹介」をスタートいたしました。今回、取材に大学を訪ね、学生さん達と並んでキャンパスを歩くと、何となく自分も若返ったような気分になり、新鮮な気持ちで取材に臨むことができました。これからは各区内大学図書館のご協力のもと、それぞれの特徴について紹介していきますので、期待ください。(光)